

第3学年 道徳科学習指導案

令和7年2月8日（土）2校時

1 主題名 「公平なたいどで」 C-(12) 公正、公平、社会主義

2 ねらいと教材

(1) ねらい 人によって態度を変える「なおと」の姿などを通して、公平に接することが大切な訳を考えさせ、誰に対しても分け隔てなく公正、公平に接しようとする判断力を育てる。

(2) 教材 「なおとからのしつもん」（どうとく3 きみがいちばんひかるとき 光村図書出版）

3 学習指導過程

	学習活動と主な発問 ◎中心発問 ○主な発問 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点 □評価の視点（評価方法）
導入	1 公平について具体例を挙げる。 ○「公平」とはどういうことでしょう。 ・えこひいきしないこと。 ・みんなに対して平等。 ・態度を変えないこと。	・具体例を感覚的に捉えられるようにして、学びのテーマにつながるようにする。 ・例が出ない場合は、『『公平でない』と思うのはどんなときか』と問い方を変える。
展開	2 教材「なおとからのしつもん」を読んで、話し合う。 ○①と②の場面で、友達はどんな気持ちだったでしょう。また、周りにいた人はどう感じたでしょう。 ①・（ひろし）悲しい。（じゅんや）ひろしに悪いな。 ②・（ゆかこ）ゲームだったのに。嫌な気持ち。 （ほなみ）今度は、ゆかこさんみたいにされるかも。 （見ている人）人によって態度が違うのはよくない。 ○「なんで、人によって態度を変えたらだめなの？」というなおとの質問にあなたならどう答えますか。 ・相手が嫌な気持ちになるからだめだよ。 ・周りも嫌な気持ちになるよ。 ・友達が離れていってしまうよ。 ◎「誰に対しても公平に接することができる人は、どんなことを大切にしていると思いますか。」 ・自分がされて嫌なことを相手にしない。 ・相手が嫌な思いをしないようにする。 ・周りの人がどんな思いをするかを考えている。 ・みんなで気持ちよく生活しようとする。	・不公平な態度を取られた立場、特別扱いをされた立場、第三者の立場から考えるようにする。 ・不安や不満など、様々な考えを引き出す。 ・児童の発言を座席表にメモし、集約してから分類・整理して板書する。 ・「人を排除してはならない」ということを考えられるようにする。 ・自分の好き嫌いを優先して不公平な態度を取ることが、自分、相手、第三者にとって、また、集団全体にとって、どのような影響を及ぼすのかという視点で考えるように促す。
	3 これまでの自分の生活を振り返る。 ○この学習を通して、「公平に接すること」について感じたこと、考えたことはどのようなことですか。自分自身の生活を振り返って考えてみましょう。	□誰に対しても分け隔てなく公平に接することの大切さについて考えを深めている。 （記述、発言）
終末	4 公正、公平に接することの大切さに関する説話を聞く。	・ねらいとする道徳的価値について、感じ方や考え方を深められるようにする。